

指導教員 重山陽一郎 助教授
社会システム工学科 景観デザイン研究室
1070550 山岡 信二

1. 背景と目的

本計画の背景は、夏場を中心にキャンプや海水浴でにぎわう柏島には、現在整備されたキャンプエリアが少なく、柏島橋周辺の海岸を利用しているのが現況となっている。そこで、トンネル工事の残土処理の場として利用していた海岸をキャンプ場として利用する計画が立ち上がり、その計画を大月町役場から大学に依頼されたことが本計画の背景となる。

次に目的として、キャンプ場及び用具レンタル施設の整備等を行い、アウトドア拠点施設として位置づけサービス体制の整備を図る事を目的とする。

2. 大月町の位置と概要

大月町は、高知県の西南端で、土佐清水市と宿毛市の間に位置する。特徴としては、総面積の約7割を山林が占めている自然の多い町であり、温暖な気候に恵まれ、農業と漁業が盛んな町でもある。そのため、雄大な自然や海中景観を求めてやってくる観光客も多く、修学旅行などの誘致にも取り組んでいる。

3. 設計対象地

設計対象地として選んだ、「竜が浜海岸」はトンネル工事で排出した残土の処理場となっていたが、この海岸は色鮮やかな熱帯魚や珊瑚が生息していることからダイビングポイントの一つとして知られている。また、普段は波も穏やかなことから海水浴場としても利用できるのではないかと考えた。

近くには、大月町の観光スポットの一つである観音様の形にいた「観音岩」がある。

2.1. 柏島について

柏島といえば、古くは磯釣りや船釣りのメッカとして知られていた。柏島周辺の海には、黒潮の恩恵を受けて数多くの熱帯魚やテーブルサンゴが生息していることから最近では、県外各地からダイバー客が訪れるようになり、今や柏島はダイビングのメッカとしても知られている。



▲図1) 大月町 位置



▲図2) 計画対象地 出典 国土地理院

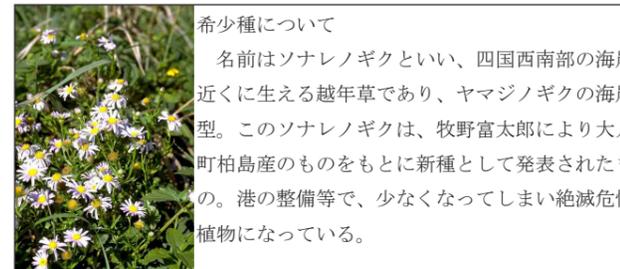


▲図3) 現況写真

3.1. 基本コンセプト

以下の基本コンセプトに沿ってデザインを行う。

- ・黒潮の恩恵を受けて数多くの熱帯魚やテーブルサンゴが生息する大月の海をアピールする。
- ・大月の緑豊かで雄大な自然をアピールする。
- ・生態系に配慮しつつ希少種の存在をアピールする。



▲図4) ソナレノギク

出典 <http://homepage3.nifty.com/hototogi2/moto/moto3p4.htm>

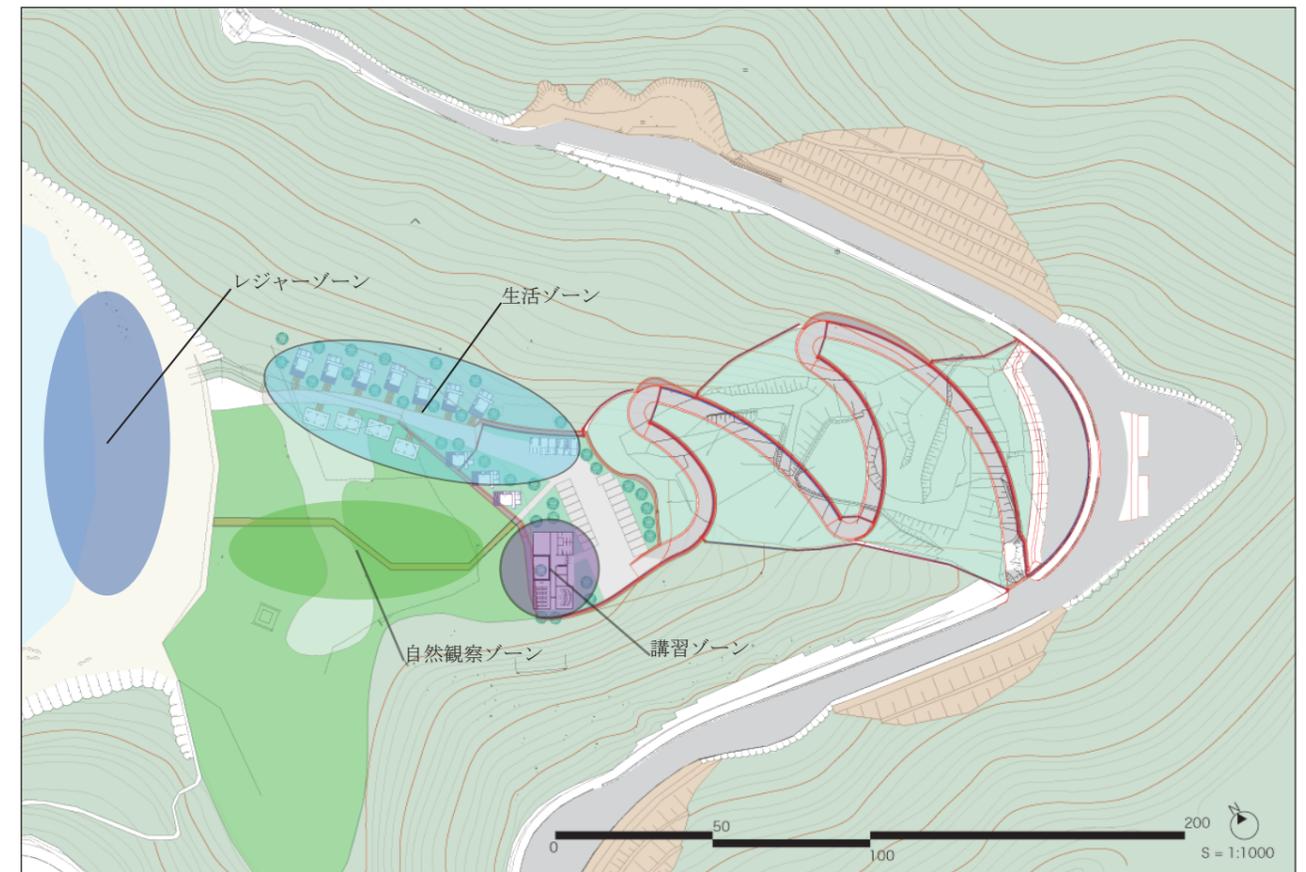
3.3. ゾーニング兼配置

まず、ゾーニングとして、生活ゾーン、講習ゾーン、レジャーゾーン、自然観察ゾーンの4つのゾーンに分けることとした。そして、生活ゾーンにはコテージ、キャンプサイト、トイレ・炊事等を配置し、講習ゾーンには

3.2. 整備方針

基本コンセプトを実現する為の整備方針として、一つ目のコンセプトに対しては、本キャンプ場は対象を主にダイビング客や釣り客、一般観光客とし、利用客にとって宿泊場所からポイントが近い理想のキャンプ場を提案する。次に、コンセプト2に対しては、コテージを山の斜面の一部分に配置することによって自然との調和を目指したコテージを提案する。そして、3つ目のコンセプトに対しては、希少種の生育する湿地帯に木製の自然観察路を設置することにより、生態系に配慮しつつ希少種の観察をできるようにする。

レンタル用具の管理保管やキャンプ場内の管理及び様々な講習の場としての管理・講習棟を配置。次に、自然観察ゾーンには希少種や自然を観察するための自然観察路を配置する。そして、最後にレジャーゾーンには栈橋を設置する。



▲図5) ゾーニング図兼配置図

3.4. キャンプ場内の各施設



▲自然観察路イメージ

希少種の存在をアピールし、知ってもらうために希少種の生育する湿地帯に、木製の自然観察路を設置する。観察路を地面より高い位置に設置する事により生態系に配慮しつつ自然を観察することが可能となる。



▲栈橋イメージ

砂浜から海に向けて設置した栈橋。浜辺から海にかけて栈橋を設置することにより、ダイビングや釣りの祭に船をつけることが可能となる。



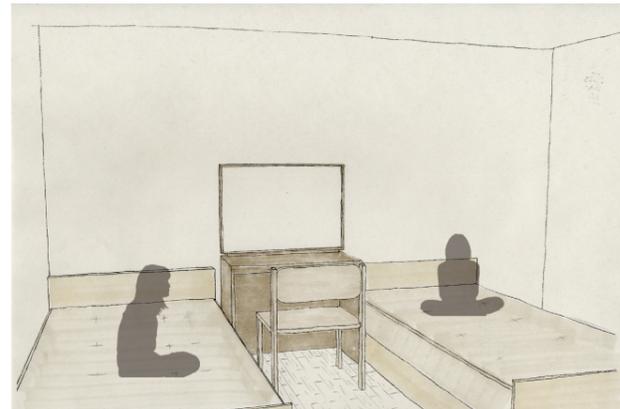
▲コテージ外観イメージ

コテージは、自然をアピールするために山の斜面に沿うように配置する。そして、外観を周囲の木に近い色を用いることにより、自然との調和を考えたデザインとした。



▲管理・講習棟外観イメージ

管理・講習棟は、キャンプ場の管理及びダイビング等のマリンスポーツや希少種に関する講習を目的としデザインした。



▲管理・講習棟内観イメージ

通路から中庭をとうして海を見た際のイメージ。



▲トイレ・シャワー・炊事棟イメージ

トイレ・シャワー・炊事棟は、ダイビングや海水浴後のシャワーや屋外トイレを設置する。また、キャンプサイト利用者の共同炊事の場としての利用を目的にデザインした。

4. 今後の課題

本計画地は、潮の流れがあるため度々海岸に流れてくる漂流物（ゴミ）をどのような方法で処理するのか。

また、今後実際に建設される予定なので、詳細なデザインを研究室で引き続き行っていく必要がある。



▲キャンプサイトイメージ

キャンプサイトは自然をアピールするため、木製のものや草原の上に設置し、自然との調和を図ったデザインとした。

